

平成20年度重点プロジェクト事業報告 (教育研究等プロジェクト支援事業)

学生のスポーツマネジメント能力養成のためのプログラムづくり —「サークル活動のための会計勉強会」—

竹下俊一^{*}，金高宏文^{**}，前田博子^{*}，和田智仁^{***}，隅野美砂輝^{*}，山崎利夫^{*}

I. 緒 言

本学のサークルや部活動においても練習場所の確保，ポジションの補充，遠征・合宿計画，練習メニューやスケジュールづくり，試合のエントリー，部員の生活管理，部費の徴収・保管，スポンサー探しなど様々なマネジメントの課題が存在している。一方，このような組織内の経営状況がわかれば，経営改善の必要性や改善策を巡り仲間同士の意思の疎通が容易になり，また組織改革や生涯教育的な能力開発や自己効力感の促進にも繋がってくと思われる。

本学は国立大学唯一の体育大学であり，その教育方針も実学を重視し，スポーツに対する科学的な基礎知識を持った上で，指導力を身につけた人材育成を目標としている。そのために，本学では開学以来，実践を学ぶ場としてインターンシップ教育をカリキュラムの柱として行っている。しかしながら，社会の変化に伴うスポーツ指導者ニーズも変化し，スポーツ指導者が活躍する場も実技指導ばかりでなく，マネジメント能力に対する社会的要請が増すようになってきた。最近では企業の新人研修にサラリーマンの三種の神器（貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書）を研修させるケースが増えてきている（「会計知識が必須の時代」日本経済新聞，2007/3/5）。グローバル化した市場やM&A（企業の合併・吸収）

等投資業務の拡大が昨今みられるが，そればかりでなく自分の所属する組織が業界でどのような地位を占め，またどのような企業価値や評価があるかを認識させるため，このような会計知識が必要となってきた。

これらの状況を踏まえ，筆者らは「学生のスポーツマネジメント能力養成のためのプログラムづくり」を企画し，平成20年度重点プロジェクト事業（教育研究等プロジェクト支援事業）として，サークルや部活動の場でのマネジメント能力の向上を目的に，特に会計処理の勉強会及びテキストづくりを実施した。なおこのプロジェクトは平成19年度からの継続事業である。

本プロジェクトで作成したテキストは，マネジメントの内容の中でも財務面に焦点をあてた内容となっている。社会科学系の大学では『簿記』，『会計学』，『財務会計』，『経営分析』などを学ぶ機会もあるが，本学では会計処理を学べるような科目は現在設定されておらず，スポーツ経営・管理学概論及びスポーツマーケティングの授業で部分的に扱っている程度である。本プロジェクトでは，サークルや部活動にそった会計処理の勉強をすることが，学生が勉学や部活動また就職活動に多くの時間を割く傍ら傍ら，限られた時間や資金の中で，何を自分たちが目指しているか，やろうとしているか，どこまでできてどこまでができないか，といったサークルや部の組織及び個人の

^{*} 鹿屋体育大学スポーツライフスタイル・マネジメント系

^{**} 鹿屋体育大学スポーツトレーニング教育研究センター

^{***} 鹿屋体育大学スポーツ情報センター

動機づけや目標設定能力養成の一助に繋がると考えている。

Ⅱ. サークル活動のための会計勉強会

本年度の事業に先駆けて、平成19年度は平成20年3月26日(火)・27日(水)に「サークル活動のための会計勉強会」を研究棟4階の演習室で開催した。初回ということもあって、体育会、サッカー部、セバタクロ部、陸上部、カヌー部の5団体8名の参加で勉強会が行われた(図1参照)。



図1. 平成19年度サークル活動のための会計勉強会
(平成20年3月24・25日)

さらに、平成20年度は12月17日(水)、18日(木)に「サークル活動のための会計勉強会」を講義棟201教室で開催した(図2参照)。講師は両勉強会とも風呂井会計事務所の坪山政人氏に依頼した。平成20年度は各教員に勉強会の通知文を配布しました。学生委員会の協力も得て、参加団体及び参加者が増加した。参加人数の内訳は、1日目:28名11団体、2日目:14名10団体となった。講習時間は16時から90分行った。この時間は部活中なので2日目の参加者は減少した。

内容は複式簿記を中心に教えるもので、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の基礎的説明と実習内容は損益計算書を中心にした演習を組んだ。簿記検定の3級程度の内容で慣れない学生には難しい内容と思われたが、参加者は非常に真剣に受講していた。これは顧問教員の先生



図2. 平成20年度サークル活動のための会計勉強会
(平成20年12月17・18日)

方の指示もあったものと思われる。勉強会後に受講生に、テキストの内容、会計ソフトについてアンケート調査を行い、評価を得た。アンケートは1日目と2日目の両日行い、評価内容は下記のとおりである。

・質問内容

- ①参加者の属性(学年、性別、所属サークル名)
- ②内容の理解度
- ③テキストの読みやすさ
- ④サークルへの適応性
- ⑤講師の説明は理解しやすかったか
- ⑥会計ソフトに関する評価(第二日目)

Ⅲ. 受講者からの評価

第1日目に複式簿記に関する理論の授業、2日目に演習を含んだ実践的な内容の授業を行った。そのため、2日間受講した学生の理解度の方が高くなっている(表1～7参照)。自由記述の意見でも2日目に「練習問題をやると理解ができた」「実際に作成する図があり、理解しやすかった」という意見がみられた。また、「もっと練習問題が欲しい」という意見も聞かれた。

教科書の内容について、今回の教科書に記載されている事例はカヌー部のみのものであった。従って他のサークルの事例も載せることができれば、

(1) 集計結果 (一日目)

表 1. 学 年

一 年	4人	14%
二 年	11人	39%
三 年	10人	36%
四 年	3人	11%
大 学 院	0人	0%

表 2. 性 別

男	22人	79%
女	6人	21%

表 3. 所属サークル

陸 上	5人	17%
剣 道	2人	7%
カ ヌ ー	2人	7%
女子バスケ	2人	7%
自 転 車	1人	4%
男子バレー	5人	17%
サ ッ カ ー	3人	11%
セパタクロ	2人	7%
ラ グ ビ ー	3人	11%
男子バスケ	1人	4%
女子バレー	1人	4%
無 所 属	1人	4%

さらに理解度が高まったと思われる。貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書については、一般の解説書と違い、非常にわかりやすい簡単な解説にした。具体例については、本学のカヌー部に協力をしてもらい1年分の会計報告を提供してもらい、貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書の形式に合わせて整理・作成し、テキストを読めばわかるように構成した。特に現金出納帳を中心に損益計算書の解説を詳しく載せた。

(2) 集計結果 (二日目)

表 4. 学 年

一 年	3人	21%
二 年	6人	43%
三 年	4人	29%
四 年	1人	7%
大 学 院	0人	0%

表 5. 性 別

男	9人	64%
女	5人	36%

表 6. 所属サークル

陸 上	2人	15%
剣 道	2人	15%
カ ヌ ー	1人	7%
女子バスケ	2人	14%
自 転 車	1人	7%
男子バレー	1人	7%
サ ッ カ ー	2人	14%
男子バスケ	1人	7%
女子バレー	1人	7%
柔 道	1人	7%

表 7. 参加者の推移

1 日 目 の み 参 加 者	16人
2 日 目 の み 参 加 者	1人
両 日 参 加 者	13人

貸借対照表については、各サークルが保有する用具や器具及び施設があるので、それらを使って固定資産や減価償却について理解できるような構成にした。ただし、流動資産や負債についてはサークルの会計になじまないため、一般でいう慣用的な説明にとどめた。またキャッシュフローについ

でも、サークル活動に応用するにはさらに検討する余地があり今後の課題となっている。学生に理解しやすい形で説明を加えるとともに、体育系の学生がなじみのある企業、ミズノ、アシックス、デサントの公表されている財務諸表からキャッシュフローを引用して説明を加えた。これらの財務諸表について辞書的な解説を掲載し、学生が新聞の経済欄を読む上での参考書として使用できるようにも心がけた。

テキストの読みやすさは2日間ともA評価（とても読みやすい）が50%とまずまずの評価を得ることができた。自由記述では「大事なところがもっとわかりやすくしてあればよかった」、「大事な語句は字を太くしたり、字を大きくすればいいと思う」という意見も聞かれた。今後の課題として改善する点といえる。

サークル活動へこの応用は、2日目がA評価21%、B評価50%、C評価29%であった。自由記述では「サークルは単式簿記で十分だと思う」、「複式簿記は適応しにくい」という意見も聞かれた。この点も次回の課題点としてあげられる。

講師の説明に関する理解度は、1日目は、B評

価14%、C評価72%だったのに対して、2日目はB評価53%、C評価43%であった。教科書は昨年度の坪山講師が使用した資料をもとに作成したが、学生の人数も昨年よりも多かったためと、講義時間も昨年は120分の2日間から90分の2日間に短縮したため坪山氏も授業をやり辛い面もあったようだ。また、内容が多少専門的だったので2日間で行うには理解がやっとなで、実際に応用するには難しい点も今後の課題といえる。

本学学生でカヌー部の戸高圭一郎君にエクセルで損益計算ができる会計ソフトをつくってもらいその使用方法をパワーポイントで解説した（図3参照）。非常にわかりやすかったようで、学生の評価もA評価（とても役立そう）が8人（57%）、B評価（少し役立そう）が6人（43%）と概ね、高い評価を得ることができた。

IV. 質の高い大学教育推進プログラム（教育GP）申請との関連

本学のサークル活動や学園祭等の課外活動をみると、9割以上の学生が、22の運動系もしくは6

Microsoft Excel - サークル活動に対応した現金出納帳.xls																
ファイル(F) 編集(E) 表示(V) 挿入(I) 書式(O) ツール(T) データ(D) ウィンドウ(W) ヘルプ(H) 表(OCR(S))																
MS PowerPoint 11 B I U 国 % , ' 80%																
G3																
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P
1																
2																
3		4月	5月	6月	7月	8月	9月	上半期累計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下半期累計	年度合計
4	収入															
5	部費	45000	0	0	0	0	0	0	45000	0	0	0	0	0	0	45000
6	寄付金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	体育会費配金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	学校からの補助金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10	合計	45000	0	0	0	0	0	0	45000	0	0	0	0	0	0	45000
11	支出															
12	宿泊費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13	旅費交通費	63000	0	0	0	0	0	0	63000	0	0	0	0	0	0	63000
14	車両費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15	工具器具備品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16	交際費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
17	厚生費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
18	油料費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19	水道光熱費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20	貨物運搬費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21	修繕費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
22	諸会費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
23	外部講師料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
24	レンタル料	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
25	車両運搬具	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
26	印刷費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
27	雑費	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
28	合計	63000	0	0	0	0	0	0	63000	0	0	0	0	0	0	63000
29																
30	収入-支出	-18000	0	0	0	0	0	0	-18000	0	0	0	0	0	0	-18000
31																
32	当年度剰余金	-18000														
33	※当年度剰余金に前期の繰越金を加えれば保有している全ての現金が															
34																
35																
36																
37																
38																
4月5月6月7月8月9月10月11月12月1月2月3月年間収支/ 4																

図3. サークル活動に対応した現金出納帳（エクセルを利用）

の研究会系のサークル活動に、ほぼ4年近くの期間活動を継続している。その中には、様々なマネジメント課題が多く存在している。そこでいわゆる「イントラシップ」としてサークル活動や部活動を通して、長期間のマネジメント能力の開発を学内で行うプログラムを計画し、教育GPに申請した。

しかしながら、平成20年度質の高い大学教育推進プログラムの審査結果は不選定になり、その理由として「社会的なニーズにあったプログラムになっているが、マネジメント能力の評価の点からは必ずしも、十分とは言えず、効果のあがる可能性に疑問が持たれる。今後は、こうした実務体験型のプログラムの達成度や学習成果について、予め具体的な評価指標を開発するなどの改善が望まれ、これらの点について一層の努力と工夫を重ねられることを期待する。」という審査結果の報告を受けた。

このように、プログラム受講後の評価方法についての問題点が今後の大きな課題であるが、このプログラムを利用することによって、組織内の経営状況がわかれば、経営改善の必要性や改善策を巡り仲間同士の意思の疎通が容易になり、また企業のOJT（職場内訓練）のような組織改革や生涯教育的な能力開発に繋がると考えられる。また、これらのプログラムはほとんどの大学で保有するサークルや部活動のマネジメントに応用することができ、課外活動を学習の場に転換できる可能性もでき汎用型の“Good Practice”になると思われる。

そこで本プログラムでは、本学のサークル活動の運営、学生の就職活動に役立つような、組織や個人の動機づけや目標設定、財務処理、スケジュール管理等の学習内容を実習できるように計画を、イントラシップという方法以外にも、授業科目やコースとしてカリキュラムの位置づけることも将来的に検討してゆきたい。

参考文献

- 阿部仁(2003) 会計教育の現状と課題, 福山大学経済学論集, vol27, pp219-230.
- 阿部仁(2004) 会計教育におけるeラーニングの活用, 福山大学経済学論集, pp91-115.
- 藤永弘(2000) 変革せねばならない会計教育, オフィスオートメーション, vol21, pp59-68.
- 本所靖博(2003) 多様化する学生に対応する簿記会計教育の考察, 星稜論苑, pp37-46.
- 石坂信一郎(2001) 日本の大学における会計教育の実態: 大学, 短期大学, 大学院におけるアンケート調査をもとに, 専修大学北海道短期大学紀要(人文・社会科学編), vol34, pp99-150.
- 亀山雅明・菅原初義(2006) 初めての簿記, 日東書院.
- 経営学辞典(1996) 占部都美(編著), 中央経済社.
- 田中浩(2006) 会計教育の改善技法としてのケーススタディについて, 地域総合研究, vol6, pp253-264.
- 澤昭人(2006) キャッシュフロー計算書入門, 中経出版.
- 新村貢一(2006) ひとりで学ぶ簿記, 新星出版社.
- 山崎利夫・青木幹太(1994) フィットネス・マネジメント入門, サイエンティスト社.

謝辞

「サークル活動のための会計勉強会」のテキストづくり及び勉強会の運営に本学学生でカヌー部の戸高圭一郎君に協力いただいたことを感謝する。